

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回茨木市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	令和7年8月28日（木） （午前）・午後）10時00分 開会 （午前）・午後）11時30分 閉会
開催場所	茨木市役所 南館6階 会議室
議長	小幡 範雄（立命館大学名誉教授）
出席者	◎小幡 範雄（立命館大学名誉教授）、川口 美加（茨木商工会議所女性会副会長）、東浦 憲次（茨木市自治会連合会監査）、林 雅敏（株ユニオンコーヒーロースターズ工場長）、山岸 悦子（廃棄物減量等推進員）、抱 達哉（廃棄物減量等推進員）、斎藤 武士（公募市民）、戸田 節子（公募市民）、奈良 幸廣（公募市民）【8人】 ◎会長
欠席者	【4人】
事務局職員	福岡市長、東井産業環境部次長兼環境政策課長、村上環境事業課長、内田下水道施設課長、三好環境政策課参事兼資源循環係長、濱田環境政策課職員【6人】
開催形態	公開
議題（案件）	茨木市一般廃棄物処理基本計画（案）について
配布資料	(1) 【資料1】施策別の取組状況（令和4年度～令和6年度） (2) 【資料2】一般廃棄物処理基本計画骨子案 (3) 【資料3】論点整理資料 (4) 【資料4】策定スケジュール

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題（ 案 件 ） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開会
	2 市長あいさつ
	3 委員委嘱
	4 出席者紹介
	5 会長、副会長の選出 委員から推薦があったとおり、会長には学識経験者である小幡委員、副会長には同じく学識経験者であり環境審議会委員である久米委員とする。 これからの議事は、会長に議長を務めていただく。
	議長 まずは委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。
	事務局 会議については、審議会規則第3条第2項の規定により、委員総数の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないとされている。本日の出席者数は総数12名のうち8名の出席である。
	議長 事務局から報告のあったとおり、過半数の出席であるため、会議は有効に成立している。
	6 茨木市一般廃棄物処理基本計画諮問 (福岡市長より会長へ茨木市一般廃棄物処理基本計画案を諮問)
	議長 ただいま諮問のあった茨木市一般廃棄物処理基本計画案について、今後、当審議会において審議する。
議長	7 茨木市一般廃棄物処理基本計画（案）について 議題1の資料1、資料2及び資料3について、事務局から説明をお願いします。
	事務局 【資料1、資料2、資料3の資料説明】

議長	資料1～3について、意見等はあるか。
A委員	資料1の2頁の新たな分別品目・再資源化の検討で、使用済の紙おむつや羽毛布団の再資源化について、令和4年～令和6年の取組状況が全て「○」となっているが、取組は進んでいるのか。
事務局	情報収集中であり、使用済の紙おむつや羽毛布団のリサイクルの具体化には至っていない。情報収集や協議を進めているので「○」としている。 実際、紙おむつのリサイクルは、4年前から市内の企業や九州の自治体とも協議してきたが、適当な事業者がおらず、実施が難しいという状況であった。 前向きな検討はしているが、なかなか難しく、現実的に可能なものから、リサイクルの検討を進めていこうと検討している。
B委員	資料2の計画骨子案の減量目標値は、今後の人口動態や事業所数の変化を考慮されているのか。
事務局	昨年策定した第6次茨木市総合計画の中で人口動態を公開しており、今後緩やかに減少傾向となっている。家庭系のごみの目標値は1人当たりの処理量であるため、人口の増減に影響はない。最終処分量の目標値は、人口の増減、企業動態に関連するため、次回の審議会資料では、その説明を含める。
B委員	人口が減少すれば、ごみも減ると考えられるが、実際には市民の取組によってごみの減少量がどの程度変わるのかが明確でないと感じる。
議長	人口動態や総合計画に基づいた予測を考慮し、上位予測および下位予測を全て検討して、次期計画に反映させること。
C委員	資料3の10頁下段の火災発生防止について、最近、リチウムイオン電池が混入して焼却場が停止、ゴミに水銀が含まれている問題などの話をよく聞くが、その処理計画や体制はどうか。
事務局	JBRCや電気店のリサイクル拠点へバッテリーの持ち込むように案内している。最終的にリサイクルできるバッテリーは、JBRCに回収されるため、JBRCに持っていった方が効率は良い。 しかしながら、市民にとっては排出しにくい状況で、気軽に排出で

D委員 議長 事務局	きる体制は取れていない。本市では、排出しやすい収集方法を検討しており、スプレー缶と同様に個別収集を考えているが、費用面、委託業者との契約内容などの課題がある。 また、市民が持ち込むバッテリーの中には膨張しているものもあり、そのような危険な場合は、市で専用の缶に入れて保管し、適正に処分している。 今後は市民がより簡単に排出できる方法を模索する必要があると認識している。 自治会でチラシや減量推進ニュースの回覧などを担当しているが、市民の関心が低いと感じている。多くの市民は、ごみを45リットルの袋に入れば何でも良いという意識が強く、プラスチックの分別や危険物の取り扱いについての理解が不足していると感じる。実際にごみ収集に立ち会うと、危険なものも含まれており、収集業者はリスクを承知で対応している。市民の意識を変えるためには、広報活動やチラシ、パンフレットを通じてアピールする必要があり、市民自身が考えを改めることが重要である。計画を伝えるためには、分かりやすく伝えることが必要である。 今の意見は非常に重要であり、計画には明記されているものの、市民がそれを理解し実践するかどうかにはギャップが存在する。この問題は他市でも共通しており、市民の意識を向上させるために、PR活動や宣伝が必要である。そのような活動はしているのか。 現在、小学4年生と5年生を対象に環境教育の副読本を配布しており、さらに小学4年生を対象に出前授業を実施している。市内の32の小学校の中から手を挙げた学校に訪問し、子どもたちにごみ問題について考えてもらう授業を行っている。また、環境衛生センターの見学も行い、将来を担う子どもたちの意識を変えることを目指している。授業後は、家庭での会話を促し、親世代にも意識を広めてもらうようにしている。 さらに、市には5つの大学があり、大学生がゼミ等の取組で、ごみ問題について市と意見交換を実施している。実際、今年の4月から2つの大学と意見交換しており、様々なごみ問題について知らなかった学生達も多くいた。そこで、大学生と共に、多くの若者にこの問題を、どう伝えていくべきかを検討した。具体的には、YouTubeやSNSを活用して発信を行い、大学生が主体となって市民に意見を伝える形で進めたいと考えている。市からの一方的な発信ではなく、若い世代が
---------------------------------	---

	自ら考え、行動する姿勢を広めていく取組を進めている。
議長	子どもたちが、家庭でリサイクルやごみの分別について親に伝えていくことが重要である。また、吹田の千里リサイクルプラザの見学会には、茨木市からも多くの見学者が来られる。このようなリサイクルの取組を広げるための確認や活動が必要である。さらに、大学生との連携を通じて地道に活動を進め、減量推進のための勉強会などを開催することで、効果的な組織づくりを目指すべきである。
E委員	最近では、テレビよりもYouTubeの方が多くの人に参考にされているため、YouTubeを活用して情報を発信することが効果的である。たとえば、牛乳パックの再利用方法などを紹介することで、口コミを通じて広がる。このような取組が有効であると感じる。
議長	本市は、アプリ（Instagram, X等）やYouTubeは活用しているのか。
事務局	活用している。
E委員	アプリ（Instagram, X等）は見ない方が多い。
A委員	YouTubeは興味のある人にしか届かないため、意識の低い層にアプローチするのが難しいと感じる。出前授業を通じて小学生に環境意識を育てることは効果的であるが、実際にごみを出すお母さん世代の意識を変えることは困難である。参観日や授業を活用して意識を高めることや、大学生に働きかけることが重要であり、戸建て住民は自治会に参加しないことが多く、孤立しているため、浸透が難しいと実感している。
議長	計画策定後に、小学生やお母さんを集めてワークショップを開き、リサイクルやごみ処理について議論するのはどうか。みんなが集まることで、ごみへの関心が高まり、ポジティブな影響が期待できると思う。
C委員	私の子どもが小学校5年生で、昨年環境衛生センターを訪れ、ごみの分別について学んだ。このような取組は長期的に見て良い影響があると感じており、持続的な取組の重要性を実感している。
F委員	食品ロスの削減は必然的な流れであり、物価上昇に伴い家庭も意識

	せざるを得なくなっている。しかし、スーパーやコンビニ、レストランなどの取組をさらに徹底する必要がある。また、資源となる半導体の適切な処理については、一般家庭での理解が不足しており、多くの人がそのまま家に放置しているのが現状である。これを解消するために、資源の再利用を促進するための指導が重要だと感じる。 それと、リチウムイオン電池による火災が発生するということが、度々おきている。それを、どのように防止していくのか、市民は分からないので、その辺のことを教えてもらいたい。
議長	スマートフォンや家庭の小型家電などの廃棄物について、通常のごみとして出すのか、資源ごみとして出すのか、または別途持ち込む必要があるのか、この件についてどうか。
事務局	資源回収に関する情報は、市から広報紙を通じて配布しており、各家庭では冷蔵庫に貼るなどして活用されている。しかし、時間が経つと忘れられてしまうことがあるため、年に1回または2回、広報で再掲載している。ただし、広報を隅々まで読まない人も多いため、効果的な情報発信方法について、市として検討を進める考えである。 小型家電の回収は、市内の6カ所に設置された回収ボックスで行っている。また、パソコンはリネットジャパンと連携しており、市民は1箱を無料で回収してもらえらる。しかし、これらの情報が十分に浸透していない。
議長	そういう情報が、ホームページを開くと、すぐに出てくる状態であるのか。
事務局	Googleで検索したときに、そのページに最初に飛んでくれない問題があり、その辺りの工夫が必要である。 転入者には、リネットジャパンのチラシなどを、市民課で配布するようにしており、新しく来られた方にも、すぐ伝わるように案内している。
議長	市は様々な取組を行っているが、情報伝達が不十分で、市民が利用しにくい状況がある。市の努力は評価されるが、市民のニーズにも配慮してほしいと思う。
F委員	私の感想として、市役所に相談の電話をした際、対応が非常に良く、適切な部署へつないでくれることに感心している。

議長	次期計画の中で資源回収量が参考値として設定されており、リサイクル率が含まれている。このリサイクル率を新たに入れることについて、問題ないか。
各委員	異議なし
C委員	生活排水に関して、最近は下水からリンを回収して肥料として農業に循環させる取組があるが、このような取組を計画に盛り込むことは可能なのか。
事務局	本市は下水処理場がなく、大阪府の管轄となっているため、今回の計画にご指摘の政策を盛り込むことはできません。
議長	これまでの論点は整理して、次期計画案に反映する。その他意見があれば伺いたいと思うが、特にないようなので、資料４のスケジュールについて事務局からから報告をお願いする。
事務局	【資料４の資料説明】
議長	スケジュールについて、次回の10月末に計画案が完成し、人口の動向なども整理された具体的な計画となる予定である。
議長	8 その他 予定していた審議事項はこれで終了であるが、他に協議すべき議題、質問等はないか。 特にないので、本日の審議会は終了とする。 9 閉会